

# 都市再生整備計画(第3回変更)

かいせいざん  
開成山地区(第2期)

ふくしま 福島県 こおりやま 郡山市

令和5年11月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	福島県	市町村名	こおりやま 郡山市	地区名	かいせいざん 開成山地区(第2期)	面積	18.5	ha							
計画期間	令和	4	年度	～	令和	6	年度	交付期間	令和	4	年度	～	令和	6	年度

※青字は記載例です。  
また、下線部は官民連携まちづくりに関する事項を明示した箇所です。  
作成にあたっての参考にしてください。

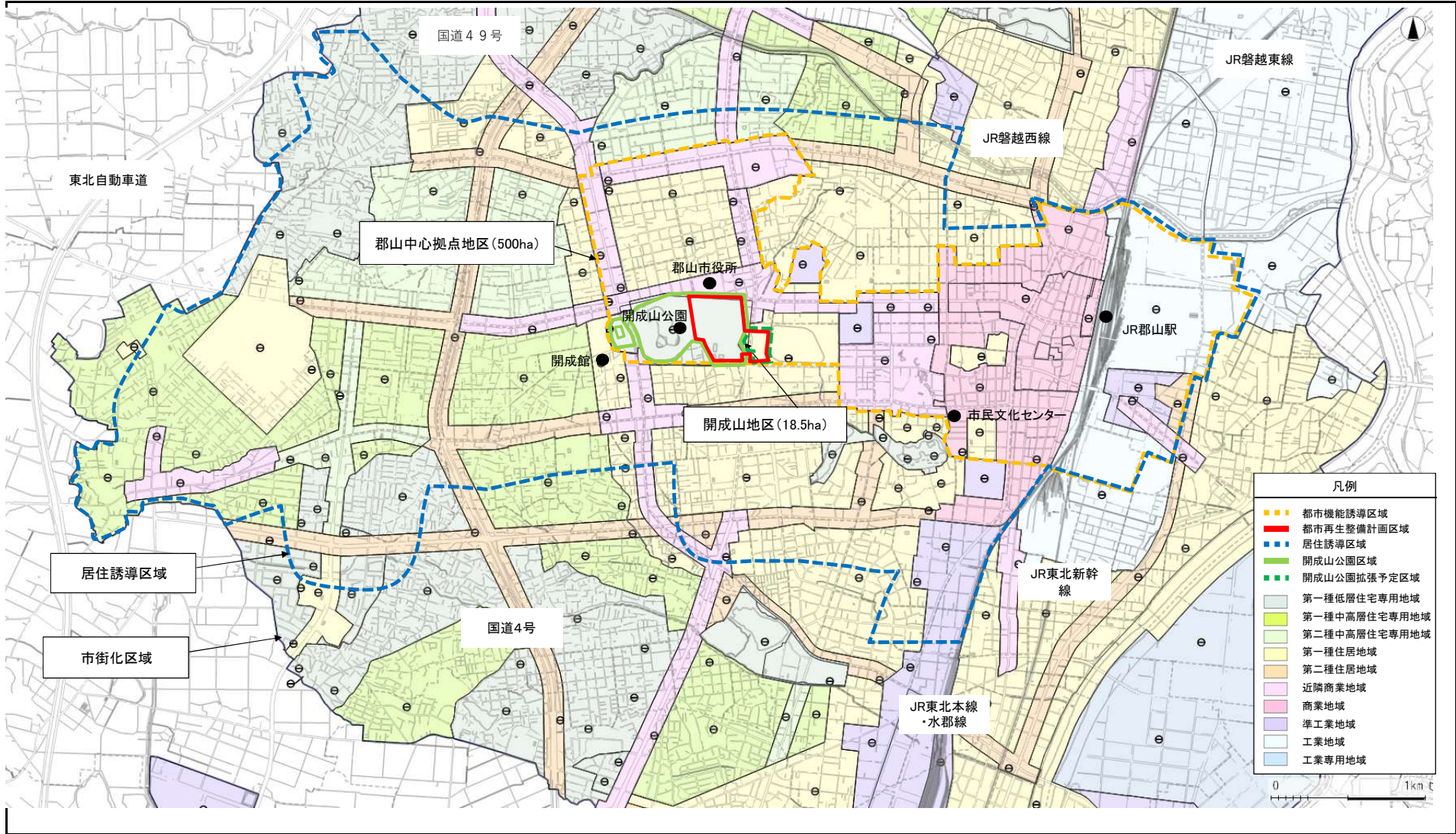
<p><b>目標</b></p> <p>大目標:本市のシンボルである開成山地区の既存運動施設等を活用したスポーツによるまちづくりを推進し、快適で健康的な都市空間の充実を図り「郡山型コンパクト&amp;ネットワーク都市構造」の形成を目指す</p> <p>目標1:スポーツ・レクリエーションの充実を図り、誰もがいつでも身近で気軽にスポーツに親しむことのできるスポーツの中心拠点施設整備による利用促進</p> <p>目標2:回遊性を高め、人々が集い交流し、賑わいあふれるまちあるき空間の形成</p> <p>目標3:プロスポーツ観戦などトップスポーツに触れる機会の創出による施設への愛着・誇り(シビックプライド)の醸成と周辺地区の賑わい創出</p>
<p><b>目標設定の根拠</b></p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>本市は、福島県の中央に位置するとともに、東北新幹線や東北・磐越自動車道が縦横に交差する高速交通網の拠点となっており、首都圏と東北、さらには太平洋側と日本海側とを結ぶ広域的なネットワークの結節点となっている。利便性の高さから、産業、教育、医療、流通等の都市機能が集積する福島県の中心拠点となっており、人・モノ・情報が集まる「陸の港」として、福島県をリードする「経済県都」として成長を続けている。</p> <p>また、本市を中心とした近隣16市町村とともに「こおりやま広域連携中枢都市圏」を形成するとともに、SDGsの達成に向けた優れた取り組みを行う「SDGs未来都市」として、少子高齢・人口減少社会にあっても地域を活性化し、経済を持続可能なものとし、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるよう取り組みを進めている。</p> <p>本市の都市づくりにおいては、「郡山市都市計画マスタープラン2015」において、将来都市構造を「郡山型コンパクト&amp;ネットワーク都市構造」とし、本市はもとよりこおりやま広域圏全体の発展を担う「広域交流中核拠点」や、その機能を補完する「交流推進拠点」、歴史的に形成されてきた地域の生活圏となる「地区拠点」、その他都市機能の核となる「産業拠点」等を定め、それらの拠点が交通や情報通信等のネットワークで結ばれた利便性の高いコンパクトで周辺環境と調和した都市の形成を目指している。</p> <p>特に、歴史資源、都市機能の集積を活かし、さくら通り、麓山通りを中心に、開成山公園から郡山駅、阿武隈川に至る東西軸を、本市の成長を牽引する「歴史と緑の生活軸」として位置づけ、質の高い都市機能を誘導することとしている。</p> <p>さらに、「郡山市都市計画マスタープラン2015」で定めた将来都市構造の具体化に向けた取組を推進することを目的に策定した「立地適正化計画」においても、高次の都市機能が集積し広域交流や市民生活を支える郡山中心拠点地区を「都市機能誘導区域」として位置付けている。</p> <p>「郡山市緑の基本計画」において、開成山公園は、周辺に市役所・私立大学・郡山総合体育館など多くの都市機能が集積しており、また、日本遺産に認定されている本市発展の礎ともいえる安積開拓・安積疏水開さく事業を今に伝えるとともに、安積開拓にみられる開拓者精神を受け継ぎながら、現在においては、本市の行政・文化・教育・スポーツの中心として位置づけられており、開成山公園内に設置されている運動施設は老朽化が進行していることから、公園の魅力を高めるため、恵まれた立地環境を生かし、多様な世代が集う交流拠点としてPF事業などの民間活用を含め開成山公園と一体的な整備・改修を検討することとしている。</p> <p>こうしたことから、本市スポーツ施設の拠点である郡山総合体育館及び開成山公園内の運動施設について機能向上を目指した改修整備することで魅力向上を図るとともに、園路などの周辺の外構施設を整備することで、回遊促進による交流と賑わい創出を推進するなど、「スポーツによるまちづくり」、さらには将来都市構造「郡山型コンパクト&amp;ネットワーク都市構造」の形成を目指す。</p>
<p><b>まちづくりの経緯及び現況</b></p> <p>郡山市は、明治初期の「安積開拓・安積疏水開さく」事業をはずみとして、農業の発展のみならず、工業の近代化、さらには、新産業都市指定に伴う商業、工業の活性化など、産業のバランスが取れた商工業都市として発展してきた。</p> <p>市街地のほぼ中央に位置する開成山公園は、本市のシンボルともいえる公園であり、周辺には、郡山市役所・郡山女子大学・開成館が所在し、360年以上にわたるため池や市民の水がめとして利用されてきた旧豊田貯水池が隣接するなど、安積開拓にみられる開拓者精神を受け継ぎながら、現在においては、本市の行政・文化・教育・スポーツの中心となっている。</p> <p>「安積開拓・安積疏水開さく」事業については、関連するストーリーが文化庁の日本遺産に認定されたことから、関係自治体や企業、ボランティア団体等を構成員とする日本遺産「一本の水路」推進協議会を組織し、歴史・文化遺産を活かしたまちづくりを推進している。</p> <p>先人の開拓の歴史を基礎とした本市が躍動感をもって発展していくためには、都市と田園が共生し、多様な豊かさをもった暮らしができることが重要となり、郡山中心拠点地区の機能を強化するとともに、地区拠点とネットワーク化を図り、「郡山型コンパクト&amp;ネットワーク都市構造」の形成を推進する必要がある。</p> <p>行政・文化・教育・スポーツ施設が集積する開成山地区は、「こおりやま広域連携中枢都市圏」を牽引する上でも、また持続的な都市構造への再構築を推進する上でも重要な位置を占めている。</p>
<p><b>課題</b></p> <p>【スポーツ中心拠点施設としての機能強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開成山地区体育施設は築40年が経過し施設設備及び競技備品等の老朽化が顕著であることから、郡山市公共施設総合管理計画に基づき、人口減少、少子高齢化による施設利用形態の変化や厳しい財政状況を踏まえつつ、スポーツ人口の増加傾向により多様化した市民ニーズへの対応するとともに、施設の点検・更新・長寿命化等を効果的かつ計画的に行うことで財政負担の軽減・平準化を図りなど、長期的視点で取組んでいく必要がある。</li> <li>近年、プロスポーツ等の公式戦や全国大会等の大規模大会が開催されているが、観客席やトイレ数の不足、施設設備等の経年劣化・社会的劣化等により市民ニーズをを満たしておらず、スポーツイベントを通じた交流の機会やまちの賑わい創出を図るためにも、既存ストックを活用しながらスポーツ拠点施設として機能向上を図る必要がある。</li> <li>「こおりやま広域連携中枢都市圏」全体の中心市としての役割が期待されており、本市はもとより圏域全体の活力を図るため、広域圏を支える賑わいある拠点及び中心市に相応しい都市機能の集約・充実を図り、多様な人々の交流と活発な都市活動の場を創出する必要がある。</li> </ul> <p>【回遊性を高める賑わいとまち歩き空間の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まち歩き空間の拠点となる交通結節点の向上のため、老朽化した開成山公園内園路を整備する必要がある。また、イベント時に周辺道路が混雑することから、渋滞緩和対策としてペDESTリアンデッキやバスベイ設置など周辺道路環境を整備する必要がある。</li> </ul> <p>【シビックプライドの醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>郡山市民にとってのシンボルである開成山公園との一体的整備を目指し、開成山公園Park-PFI事業と連携を図りながら効果的な整備をする必要がある。</li> <li>施設の機能向上により多くのプロスポーツ等公式戦や大規模大会等が開催されることで、トップスポーツを身近に体感し触れる機会を創出するとともに、競技者にとって夢やあこがれの舞台となり、市民に親しまれ愛され誇りを持つことができる魅力あふれる都市空間・シンボル形成を図る必要がある。</li> </ul>



計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【スポーツ・レクリエーションの充実を図り、誰もがいつでも身近で気軽にスポーツに親しむことのできるスポーツの中心拠点施設整備による利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツを「する」楽しみ、「みる」楽しみ、「ささえる」楽しみが感じることのできる拠点施設として、設備等の充実を図り、スポーツ活動を中心としたまちづくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【基幹事業】(公園)開成山公園運動施設等整備事業(陸上競技場・野球場)</li> <li>【基幹事業】(道路)市道荒井八山田線道路整備事業</li> <li>【基幹事業】(地域生活基盤施設 情報板)情報板整備事業</li> <li>【提案事業】(事業活用調査)開成山公園運動施設整備基本コンセプト等策定事業</li> </ul>
<p>【回遊性を高め、人々が集い交流し、賑わいあふれるまちあるき空間の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開成山公園内の園路等整備など、都市公園を含めたエリアの一体的な快適性の創出、ゆとりある歩行空間の確保</li> <li>・乗合自動車停留所をバスベイ型へ改良するとともに、ペDESTリアンデッキを新設し、主要道路で分断されている総合体育館敷地と陸上競技場敷地を接続することで、開成山公園へのアクセス整備による利便性の更なる向上</li> <li>・情報板整備による情報提供による周辺地区の賑わいの拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【基幹事業】(公園)開成山公園運動施設等整備事業(園路)</li> <li>【基幹事業】(道路)市道荒井八山田線道路整備事業</li> <li>【基幹事業】(地域生活基盤施設)ペDESTリアンデッキ整備事業</li> <li>【基幹事業】(地域生活基盤施設 情報板)情報板整備事業</li> <li>【提案事業】(事業活用調査)開成山公園運動施設整備基本コンセプト等策定事業</li> </ul>
<p>【プロスポーツ観戦などトップスポーツに触れる機会の創出による施設への愛着・誇り(シビックプライド)の醸成と周辺地区の賑わい創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存施設の機能向上を目指した改修による魅力アップ</li> <li>・市のスポーツ拠点施設としてのシンボル性を表現した空間形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【基幹事業】(公園)開成山公園拡張整備事業</li> <li>【基幹事業】(道路)市道荒井八山田線道路整備事業</li> <li>【基幹事業】(地域生活基盤施設 情報板)情報板整備事業</li> <li>【提案事業】(事業活用調査)開成山公園運動施設整備基本コンセプト等策定事業</li> </ul>
<p>その他</p>	
<p>【あすまちこおりやま(郡山市まちづくり基本指針)の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・策定にあたっては、従来からの市民参加手法であるパブリックコメント、市民意識調査、地区懇談会等、わかもの政策討論による次世代を担う若者からの意見を反映</li> <li>・また、新たな取り組みとして、より公平な市民参加を確保するため、無作為抽出した市民の皆様による「あすまち会議こおりやま」を開催し、幅広く市民の「想い」や「願い」を基本指針に反映</li> <li>・さらには、14の行政センター及び旧市内の全15地区で、地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」を開催し、地域の宝や未来に残したい地域の姿について検討</li> </ul> <p>【猪苗代湖・安積疏水・安積開拓を結ぶストーリー「未来を拓いた「一本の水路」―大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡郡山・猪苗代―】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年4月25日 文化庁の日本遺産に認定。</li> <li>・関係自治体や企業、ボランティア団体等を構成員とする日本遺産「一本の水路」推進協議会を組織し、歴史・文化遺産を活かしたまちづくりを推進</li> </ul> <p>【こおりやま広域連携中枢都市圏の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年3月19日、「こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョン」を策定</li> <li>・「『広め合う、高め合う、助け合う』こおりやま広域圏 ～ 持続可能な圏域の創生 ～」を将来像とし、圏域の基本目標や具体的取組等を定めた</li> <li>・近隣16市町村とともに、住民が引き続きそれぞれの地域で暮らし続けられるように利便性を維持向上させ、将来にわたって豊かな地域として持続していくことを目指し、連携中枢都市圏の取組みを推進。</li> </ul> <p>【SDGs未来都市】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年7月1日、自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取り組みを行う都市として、県内で初めて「SDGs未来都市」に選出。</li> <li>・「SDGs未来都市」の中でも、特に先導的な取り組みであって、多様なステークホルダーとの連携を通じ、地域における自律的好循環が見込めるものとして、東北で初めて「自治体SDGsモデル事業」にも選出。</li> </ul> <p>【郡山市緑の基本計画の概要】</p> <p>基本方針3「緑を柔軟に活用する」に基づく施策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>多様な利用に対応した都市公園などの整備・施設更新             <ul style="list-style-type: none"> <li>○都市公園内の体育施設の整備・改修                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・開成山地区の体育施設は老朽化が進行していることから、公園の魅力を高めるため、恵まれた立地環境を生かし、多様な世代が集う交流拠点としてPFI事業などの民間活用も含め開成山公園と一体的な整備・改修を検討</li> </ul> </li> <li>○ニュースポーツ系施設の整備検討                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020オリンピック競技大会で正式種目になったことなどにより注目を集めるニュースポーツ(スケートボード、ローラースケート、フットサル、3x3*などのストリートスポーツ、スポーツクライミングなど)や、ツリークライミングなどの緑を生かしたスポーツを楽しめる</li> <li>施設の整備を検討。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol>	



かいせいざん <b>開成山地区(第2期)(福島県郡山市)</b>	面積 <b>18.5</b> ha	区域 豊田町の一部、開成一丁目の一部
-------------------------------------	-------------------	--------------------



開成山地区(第2期)(福島県郡山市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	大目標:本市のシンボルである開成山地区の既存運動施設等を活用したスポーツによるまちづくりを推進し、快適で健康的な都市空間の充実を図り「郡山型コンパクト&ネットワーク都市構造」の形成を目指す 目標1:スポーツ・レクリエーションの充実を図り、誰もがいつでも身近で気軽にスポーツに親しむことのできるスポーツの中心拠点施設整備による利用促進 目標2:回遊性を高め、人々が集い交流し、賑わいあふれるまちあるき空間の形成 目標3:プロスポーツ観戦などトップスポーツに触れる機会の創出による施設への愛着・誇り(シビックプライド)の醸成と周辺地区の賑わい創出	184,015人/年	人/年	184,015人/年 (R2年度)	→	250,000人/年 (R7年度)
		417人/日	人/日	417人/日 (R2年度)	→	500人/日 (R7年度)
		72.1点	点	72.1点 (R3年度)	→	72.5点 (R7年度)
代表的な指標						

